

学生への成績評価の フィードバックの一例

平成24(2012)年6月28日
FD研修会

生活福祉文化学部
山本智也

成績評価方法：配分割合

- レポート(40%)
 - ◆ 各回3点×12回=36点
これを40点換算する。
 - 未提出もしくは内容不適、書式不備のレポートが4回以上となった場合は本講義は不合格とする。
- 形成テスト(60%)
- この2つの成績をもとに行う。

レポートの活用及び評価方法

- レポートテーマ(12回分)は、第1回授業で指示。
 - ◆ 基本的には予習レポート
(授業のプリント類は、各自が事前に当職作成のWebページからダウンロード、印刷して持参させている。)
 - ◆ 各回冒頭に、2名をくじで指名し、レポートの発表
さらにもう1名指名し、2名の発表内容を要約させる。
 - ◆ 授業終了後に、レポート裏面に今日のコメントを記載させ、提出させる。
 - ◆ 3点満点での採点結果、必要な場合はコメントを付して、次週授業の開始時に受講生に返却している。

科目のWebページ

Tomoya's Laboratory College Course

2011年 秋期 教育学 A 2 V 共通

教育学A2のWebページ
教育学A2のWebページ

連絡事項 11月24日を休講とします。

回	日	ファイル	テーマ	事前レポートテーマ
1	9/22	オリエンテーション	教育学の学びをはじめにあたって	
2	9/29	子どもの問題行動と教育	子どもの問題行動と教育	子どもの問題行動について
3	10/6	学力とは何かを考える	学力とは何かを考える	全国学力・学習状況調査の意義と問題点
4	10/13	格差社会と教育	格差社会と教育	教育の機会均等と格差
5	10/20	学校の成立とその価値	学校の成立とその価値	学校の存在意義を考える
6	10/27	近代以前の日本の教育	近代以前の日本の教育	日本における学校教育制度の歴史

第1回授業配付プリント中のレポート指示事項

6 講義、レポート課題、試験日程(予定)

① 9月22日 オリエンテーション 教育学の学びをはじめにあたって
※ スタートにあたっての課題
① 臨床教育学入門を速読 ② 学生のための教育学を速読

第1回レポート 次回講義(9月29日)まで
テーマ 「子どもの問題行動について」
内容 子どもの問題行動の状況を一挙取り上げ、その現状を述べた上で、教育は何か出来るのかを考える

② 9月29日 子どもの問題行動と教育

第2回レポート 次回講義(10月6日)まで
テーマ 「全国学力・学習状況調査の意義と問題点」
内容 全国学力・学習状況調査の概要を述べた上で、その意義と問題点について考える。

③ 10月6日 学力とは何かを考える

第3回レポート 次回講義(10月13日)まで
テーマ 「教育の機会均等と格差」
内容 格差 教育の機会均等

④ 10月13日 学校が当面する問題 1 格差社会と教育

第4回レポート 次回講義(10月20日)まで
テーマ 「学校の存在意義を考える」

第1回授業配付プリント中の レポートの記載事項の指示

8 レポートの記載要領

- (1) 原則として、ワードプロセッサを使用すること
- (2) 用紙 A4用紙を縦に使用する。並行目に2箇所パンチ穴を空け、左向き中央で綴じを2か所で行う。
- (3) 書式 横書き、1行40字×30行、上下左右余白は、それぞれ25ミリとする。
- (4) 分量 2枚以上、上部有頭
- (5) 提出方法など 授業中は各自手元に置く(保存した書には発表していただく)。授業終了後、裏面に今日の授業の感想を書いた上で担当者へ提出する。次週各自に返却するので、各自でフロッピーファイル等に保存しておく。

(8) 1ページ目の書式

1行目		提出日 (右寄せ)
2行目	〜〜〜について	
3行目	(レポートのテーマを中央に)	
4行目	敬行のみ(何も書かない)	学籍番号〇5×××××
5行目		(名前は一文字おきにスペースを入れる。さらに右に「文字分番号」)
6行目	敬行のみ(何も書かない)	
7行目	本文	

-1-
(下10ミリのところに)

形成テストについて

- 14回目授業で実施している。
(持ち込みなし)
- 採点した上で、15回目授業で答案を返却する。
 - 採点した答案
 - 個人別成績計算書
 - 全体の試験結果についての資料

7

15回目授業におけるフィードバック

- 形成テストについての開示項目
 - ◆ 100点満点の素点
 - ◆ 形成テスト受験者の最高点、最低点、平均点、
10点刻みの分布
 - ◆ 各設問における各自の素点
 - ◆ 各設問における受験者の最高点、最低点、平均点
- レポート(12回分)についての開示項目
 - ◆ 各自の得点、受験者の最高点、最低点、平均点

8

15回目授業におけるフィードバック

- 総合成績についての開示項目
 - ◆ 100点満点の素点
 - ◆ 形成テスト受験者の最高点、最低点、平均点、
10点刻みの分布

9

得点計算表の一例

平成23年度後期 教育学
得点計算表

学籍番号 000001 氏名 AAA BBB

レポート 12点/36点	試験 82点/100点
1月29日 2点/3点	第1問A 14点/16点
11月 8点/16点	第1問B 14点/16点
10月19日 2点/3点	第2問 2点/3点

中略

①レポート換算点 20点/40点 ②試験換算点 38点/80点

素点 58点 (①+②)

総合点 70点 (①+②+12点、上限100点)

10

全体結果開示例

平成24年2月2日
教育学

教育学A 試験結果の概要

- 1 実施日 平成24年1月19日
- 2 受験者 48人 (登録者84人)
- 3 得点結果
 - (1) 得点の分布、平均点、最高点、最低点

90点～	0人	
80～89点	0人	
70～79点	5人	最高点79点 (昨年85点)
60～69点	9人	
50～59点	8人	
40～49点	7人	平均点49.0点 (昨年30.5点)
30～39点	8人	
20～29点	5人	
10～19点	3人	
0～9点	2人	最低点4点 (昨年0点)

11

授業内での評価フィードバックのメリット

- ◆ 受講者の納得
- ◆ 「何が出来て、何が出来なかったか」の理解
- ◆ 再履修する場合、対策が立てやすくなる。
- ◆ 採点作業が早く終了する。

12